市長のおでかけミーティング　自然科学研究機構

　市長が市内の企業や店舗に出かけて話を伺う「おでかけミーティング」。
　従業員さんやお客さんとの意見交換や激励を行い、それを発信することで、市民の皆さんに岡崎の企業、店舗の良いところを知ってもらい岡崎愛を深めていただけるように取り組んでいきます。
　第６回のおでかけ先は、世界を牽引する自然科学分野の国際的研究拠点「自然科学研究機構」。市内で 30 年以上にわたり日本語教育を行っている教育機関である学校法人服部学園　服部良男理事長にも御参加いただき、「高度外国人材等の定着」をテーマにお話をしてきました。

岡崎のレベルアップを実感！定着に必要なのは「子の生活ケア」

岡田部長　今日は「外国人のかたの定着に向けて」をテーマとしていますが、そこにこだわらずに、いろいろなお話をいただければと思っております。
　まずは、自然科学研究機構から参加いただきました、阿形清和基礎生物学研究所長、鍋倉淳一生理学研究所長に自己紹介を兼ねながら外国人の定着という切り口で、岡崎のまちづくりにとって何が見込めるか、というようなことをお話しいただければと思います。

阿形所長　私が最初に岡崎で生活をしたのは1983年からの７年間で、この研究所で助手として研究をしていました。次男は岡崎生まれで、大西保育園の０歳児保育の第 1 号で、０歳児保育の開拓者です。

40 年前は外国人は珍しい存在でしたね。当時は外国人の研究者は三島ロッジに泊まっていて、通学途中の学生が外国人を見て驚いていたのがとても記憶に残っています。子どもたちは背の高い金髪の外国人を指差して「外人！外人！」と言うので、アメリカから来た教授が最初に覚えた日本語は「外人」でした。「おはようございます」、「こんにちは」じゃないんですよ。笑

そして 2019 年に所長として再び岡崎に来ました。40 年もすると状況は変わっていて、岡崎には外国人も増え、子どもたちも見慣れてきたんだなと感じます。

ただ、３年前、ポーランドから家族も連れてこの研究所に来られたかたがいたのですが、「生活する」となるとかなり難しい面がありますね。お子さんが保育園や小学校に通うとなると言葉の壁が高く、コミュニケーションをとるのが本当に難しい。外国人の子が浮いてしまうこともあるようです。それから病気やけが。コミュニケーションがとれないと本当に辛い部分なので、子どもたちの環境の中でも外国人の割合が増えたり、日本の子どもたちも英語でコミュニケーションがとれるようになるといいと感じます。

40 年前を思うと、岡崎市内の観光でも、大樹寺や八丁味噌への観光ツアーに英語ボランティアが付いたり、岡崎全体として外国人の方々への対応は非常にレベルが上がってきたなと思っています。しかし、研究者が家族で日本に来てスムーズに生活できるかというと岡崎はまだまだで、子どもの生活環境のレベルアップがこれからの課題だと思っています。

鍋倉所長　私は、2004 年に岡崎に来て 20 年になります。20 年前でも、だいぶ、外国人対応はできていたと思います。ポイントとなるのは、阿形所長も言われたように「子どもの生活ケア」だと思います。特に小学生。それがきちんとできれば、家族で定着に繋がると思います。

　それと、ここは研究者を育てる場所なので、ここで良い研究して世界へ売り出していくという一方で、中には日本が好きで、日本で起業したいという人も今後も出てくると思います。しかし、今の日本には外国人が起業するためのサポートは少ないです。岡崎での定着を目指すのであれば、外国人が起業するためのサポートが必要だと思います。

岡田部長　ありがとうございます。分子科学研究所からは助教のシルバンさんに来ていただきました。
シルバンさん、フランスから岡崎に来て生活をされていますが、実体験を踏まえ、どうしたら日本に住みやすくなるか、お聞かせいただけますか。

シルヴァンさん　私は５年前に岡崎に来て助教として働き始めました。その時は今ほど日本語が分からなくて、たくさん勉強しました。
　僕たちのチームにフランスやイギリスから来る人たちは、大体、全く日本語を知らない。まず、最初の１年で日本語を勉強するサポートが必要です。今も、２，３人のチームメイトが図書館交流プラザりぶらなどに日本語の授業を受けに行っていて、とても喜んでいます。日本語が話せるようになると可能性が広がりますからね。
　一番大事なのは言葉で、特に家族、子どもがいる場合、保育園に入れたくても日本語が分からないと難しいと思います。

　また、ずっと日本にいるつもりではないかたもいます。わざわざ日本語を勉強させる必要はないと感じる親は、英語だけでも通用する保育園を探しますが、そういった保育園はなかなかありません。英語の使える保育園や小学校があるのは大事ですね。

ストレス解消法は“自然を感じる”こと。サイクルシェアででかけよう！

阿形さん　家族となると、子どものケアだけでなく、車も必要になります。岡崎は公共交通機関が充実しているわけではないので、自家用車移動が基本ですよね。慣れない環境での運転にストレスを感じてしまうというのもあると思います。

中根市長　ちょうど“ストレス”の話が出たので、一つお話を。昔、つくば市に筑波研究学園都市ができた時の話です。当初、つくば市に移住してきた研究者たちは孤立を感じ、ストレスを解消する場もなく、自殺者が多かったのです。つくばシンドロームと呼ばれていました。それが、つくば万博をきっかけにショッピングセンターや飲食店ができて、市に賑わいが生まれ、ストレスを解消する場ができ、自殺者も減っていったということです。
　日本に住む研究者が、外国に住むことによるストレスをどう解消しているのか、お聞きしたいです。

シルヴァンさん　自然を楽しむことでストレスが解消されると思います。くらがり渓谷が綺麗で気に入りましたが、車がないと行けない。ここに来る学生たちは車を持っていません。バスで行けたら便利なんですけどね。ストレスを発散したい時、自然がある場所を子どもや友達と散歩したいと思いますが。

中根市長　皆さん、日本の運転免許を取るのですか。

阿形所長　国によって違いますね。この前、ポーランドから来たかたはいくつか教習を受けて日本での免許を取得されていました。

　車を買おうと思っても、留学生はそんなにお金があるわけじゃないので簡単には買えません。シェアサイクルが人気です。三島ロッジにシェアサイクルのポートがあるので乗ろうと思った時に、全部貸出中で出払っていたんですよね。もう少し数が多いとうれしいです。

シルヴァンさん　最近、籠田公園の周りもきれいになったので、自転車で行っていろんな店を楽しみたいです。

中根市長　さっそく増やしましょう！

岡崎はセンターオブジャパン。住んで仕事をしてもらえるまちに

服部理事長　私は服部学園でYAMASA 言語文化学院、いわゆる日本語学校の理事長を務めています。

　YAMASA は設立から約 30 年が経ちました。この 30 年間で外国人が日本に来る目的が随分変わったと感じています。

　最初の頃は、日本の先進的なIT技術を学びたい、というかたが多かったです。その後、アニメ、漫画へと興味が広がってきています。それから、最近は日本を代表する企業のトヨタグループの研修生たちが日本語教育を受けに来られます。

　これまで、アメリカではあまり日本語を勉強することがなく、英語で世界中通用してきたわけですが、最近は日本語を学ぶアメリカ人がものすごく増えてきま

した。それも、高学歴の方々です。母国の大学を出た後、日本語を学び、日本で働きたいというかたが増えているのです。

日本は、安全な国です。そして、清潔でいろんなものが充実している。日本の医療制度もとても評判が良いです。

また、保育料や授業料の無償化や補助制度、こういう教育制度がきちんとしているところも魅力的です。

日本の魅力がこれだけ広まったのは、SNSの発達が大きな効果を出していると感じます。これまでテレビや雑誌で伝えられてきたのは“編集された日本”ですが、SNS では実際に日本に住んでいる外国人の“生の日本”が発信されています。“日本の良さ”は SNS を通じて世界中にどんどん広まっています。

今後、どこで働くか、将来は家族も一緒に、と考えた時、日本という国のブランドはものすごく上がってきたとを実感してます。

こういった背景から、今年の4月に EGAO GROUP にキャリアセンターを作りました。日本に来たかたの進学先や就職先を探し、日本に来た目的を達成するためのお手伝いをしています。

岡崎は、センターオブジャパンです。日本の中心だということ、それから、家康とトヨタ自動車、歴史と最先端の真ん中、愛知県の真ん中、海も山もある真ん中、都会でもなく田舎でもない真ん中。キーワード探していくと「真ん中」と言えます。

少し残念なのが、就職までの手続きの複雑さですね。東京の企業だとオンライン面接を1回やって明日から働く、なんてスピード感もありますが、岡崎だと総務を通して履歴書出してください、みたいな。これがものづくりで培ってきた細やかな精神からくるものなのか、東京とはビジネス感覚が違います。

こんなことを考えながら、岡崎を、外国人のかたが住んで仕事をしてもらえるまちにしていきたいと取り組んでいる最中です。

シルヴァンさん　岡崎に住んで仕事をするにはリモートワークスペースの拡充も必要かなと思いますね。そうなれば、他県の企業に勤めながら岡崎に住むことができます。岡崎の企業だけだと選択肢が少ないので。

岡崎のまちと融合しハッピーな循環を創出

阿形さん　就職するまでの手続きが複雑という話がでましたが、神戸市には「神戸医療産業都市」というものがあります。医療特区として神戸市が認定し、海外から来るかたの手続きが簡素化されたり、保育園をはじめ外国人家族を受け入れるためのインフラ整備がされています。特区では外国人のかたが、比較的簡単に生活できる仕組みつくられているんですよ。

特区にするためには、看板となるものが必要です。自然科学研究機構の研究がそれに貢献できるとありがたいですし、研究所に来る外国人やその家族もケアもできる仕組ができて、ハッピーな循環が生まれると思います。

全国に 19 の文部科学省直属の研究所がありますが、1箇所に3研究所が集まっているのは岡崎だけです。地元、岡崎とうまくコラボレーションしたいと考えていますが、どちらかというとこれまでは丘の上に浮いてる存在という感じがしていました。50 年の歴史の中で今回のようなミーティングの機会は初めてだと思います。これからは様々な面でコラボレーションし、岡崎と融合していきたいと考えています。お互いに協力し合い、研究で成果を上げる、岡崎が盛り上がる、優秀な研究者獲得、というように良い循環を創出していきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いします。

中根市長　特区構想については、これからプロジェクトを作り研究所と一緒に取り組んでいきたいと思っています。まずは、世界レベルの最先端の研究をされている研究者の方々が岡崎で快適な研究生活をしていただけるように取り組んでいきたいです。岡崎での生活が功績につながれば、岡崎市民としては大変光栄なことだと思います。今日は、とても貴重なお話をありがとうございました。

おでかけデータ

訪問日:令和5年 11 月 22 日
訪問先:自然科学研究機構
　　岡崎市明大寺町字西郷中 38

自然科学研究機構について

◇ 外国人の研究者・学生も在籍する国際的な組織です！

▶雇用契約を結んだ研究者（概ね半年～１年滞在、更新制度あり）：３５名ほど

▶大学院大学で学ぶ留学生（３年～５年滞在）：１６名ほど
過去10年の学位取得者72名のうち、約半数の34名が岡崎の３研究所の研究職として就職。

▶その他個別のプロジェクトによる招聘研究者や国際共同研究制度に基づく研究者（一か月程度の短期滞在）、
外国人特別研究制度に基づく研究者（短期～長期滞在）などが活躍されています。

◇ 産学連携に関する取り組みを推進しています！

機構が実施する学術研究の成果を産業界で活用／産業界のニーズに応える研究開発　→こうした取り組みを推進中！
▶分子化学研究所での研究の成果として燃料電池用に使用される素材の発明により特許を取得！

◇ 本市と自然科学研究機構とのつながり！

▶研究所の一般公開イベントにてコンテンツの作成（イベントへの岡崎市後援＋コンテンツ作成の業務委託）
☞ R5.10.28　一般公開@生理学研究所「丘の上の研究者に会いに行こう」
研究室の公開事業において実施した「以心伝心・筋活動！ゲーム」は、本市デジタル推進課からの業務委託により、児童等へデジタルコンテンツによる先端技術の体験機会を提供するため作成されたもので、体験会での意見を取り入れて改善し、今後も出前授業などで使用予定。今後も取り組みを継続する予定です。

▶せいりけん市民講座の開催（生理学研究所・岡崎市主催）
☞R5.7.22　「第39回せいりけん市民講座　深みにハマる脳の話」150名定員に199名が来場。
市民講座とあわせて、岡崎高校と岡崎北高校によるワークショップを開催

▶サイエンスセミナーの出前授業
☞希望する学校が機構へ依頼し、出前授業を実施いただいています。
R5.2.15　城北中学校「ゲノムと脳を通じて我が身を知る」（生理学研究所）